

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ピュアライン・ナノデス	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.500	△RG	0.053	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ピュアライン・ナノデス

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ
- 研磨剤

番

比較対照ボール：アブソリューション・ハヤブサ

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

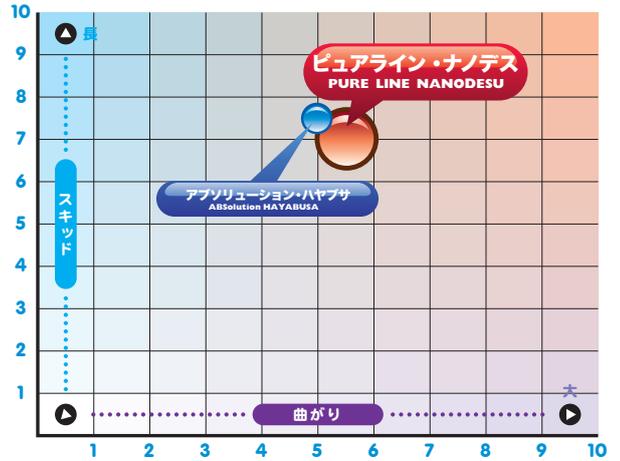
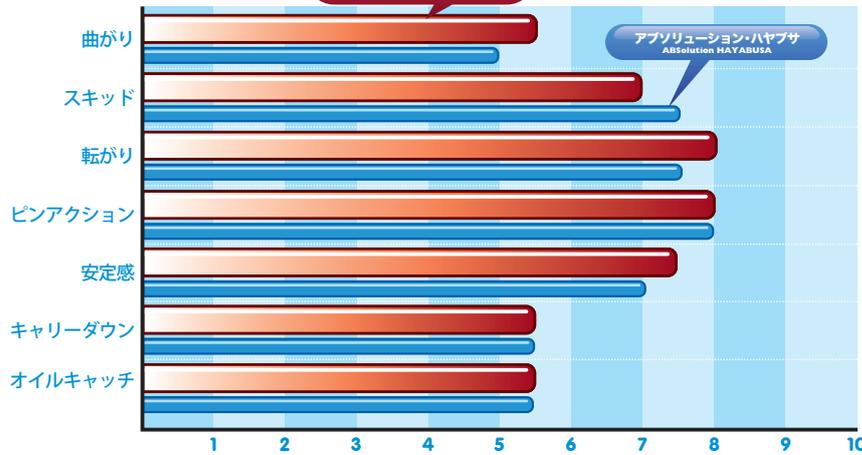
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ
- 研磨剤

番



ピュアライン・ナノデス
PURE LINE NANODESU



ボールの評価

ウレタン素材のボールが市場を賑わしたのはPBAツアーでした。現状のツアーは手前からオイルが薄く、長いコンディションが採用される傾向があり、現在主流のキャッチ系リアクティブではオーバーリアクションを伴い、オイルの薄さやドライゾーンで過激に反応しないボールの需要。それがボールの進化と時代を逆行するかのように見える、ウレタン素材の導入という答えになったのでしょうか。ですが現在のボールでは逃れることのできないオーバーリアクションを避けるための選択肢としては有効であり、日本でも多くの方が他社メーカーのウレタンボールを求めたのも事実。ウレタンボールが主流とされていた当時、多くの方が使用されたABS代表作でもある「T-バランス」のカバーストックを現代流にアレンジし、コアシステムにアキュライン9で使用した「BIG Shuttle」、それに加えナノデスで使用されているピンアクションの生命線でもある「衝撃吸収コアシステム」。ウレタン素材ですが、現代のテクノロジーを駆使した結晶がこのPURE LINE NANODESUには組み込まれています。

ウレタン素材の「旨み」は”曲がらない”ということではなく、オイルの有無の段差を緩やかにリアクションとして見出してくれること。薄くなったボードに対して過激な反応を見せない分、曲がり始めから曲がり終わりまでの軌道が読みやすく、「ウレタン素材そのもの」の性能を味わえると思います。軸移動を補うネジレ感の強いBIG Shuttleコアの採用でウレタンボールでも「当時のウレタンボール」との差は歴然。レーンヘッドの薄いオイル、リアクションを過激に感じてしまうコンディション等、さまざまなシチュエーションでその用途を見出してください。

特記事項

ウレタン素材の特性を生かしつつ、現代のテクノロジーをノウハウを注入したPURE LINE NANODESU。過激に反応してしまうコンディションや遅め対応のボールとしてスペシャルな性能を発揮します。